

知っておきたい
赤ちゃんの病気



栗山町

病気の第一発見者はお家の人です。
すぐれた目で赤ちゃんを観察しましょう。

赤ちゃんからのサイン

- きげんがわるい
- 食欲がない
- 眠らない

観察のポイント



表情

- いきいきしているか
- ぼんやりしているか
- キョロキョロした目つきをしていないか

その他

- きげん
- 泣き方
- 発熱
- 体重の増減
- 吐いたか
- けいれんがあるか
- 意識はあるか

おしっこ

- 量・色
- 回数
- におい
- 混入物

うんち

- 量・色
- 回数
- におい
- 混入物
- 固さ
- 便秘
- 下痢

食欲

- ふつう
- なくなった
- 増している

睡眠

- ぐっすり寝ている
- うとうとする程度
- 眠らない

耳

- 聞こえはどうか
- 痛みがあるか
- 耳だれがでて
いるか

鼻

- 鼻水がでるか
- つまるか
- くしゃみがでるか

くち

- くちびるの色
- 乾いているか
- 何かできて
いないか

のど

- 赤くなっているか
- 痛みがあるか
- せきがでているか
- 声がかれているか

目

- 目の輝きはどうか
(きらきらしているか
どんよりしているか)
- 目やにがでているか
- まぶしがらないか

こんなときは、急いで病院へ！！

- 顔色がわるい
- ぐったりしている
- 頻回に吐く
- 息づかいがあら
- 出血がとまらない
- ひきつけがなかなかとまらない
- 意識がない

時間外でも夜間でも診てもらいましょう。

子どもの事故は家の中から！！

事故を防ぐには「目を離さない」ではなく「目を離しても大丈夫！！」といえる環境をつくるのが大切です。成長・発達に応じて、家の中や周囲の安全点検をしましょう。

お水大好き…

⇒ おぼれ
(浴室・洗面所・トイレ)

水は手ざわりも動きも子どもにとってはとても不思議。さわってみたいという気持ちを抑えられません。

なめてみたい…

⇒ 窒息・誤飲

なんでも口に入れたり、なめて味を確かめてみたいのが子ども。食べるものと食べられないものの区別はつきません。

なんでもしてみたい 子どもの不思議な行動



大人がやっていたから…

⇒ タバコ誤飲

何でもまねをしてみたいのが子ども。タバコに火をつけたり口にくわえていれば、自分もやってみたくくなります。

足元が見えない…

⇒ けが・転倒
(階段・ベット・ソファー)

バランスをとる能力はまだ未熟。おまけに、怖いという感覚もありません。また、子どもの視野は大人よりずっと狭く、足元に障害があっても、段差があっても見えません。

雲みたいだなあ…

⇒ やけど

(ポット・炊飯器
ストーブ・ヒーター)

子どもは湯気がおもしろい。ついつい手をだしてしまいます。

いい匂い・目についた…

⇒ その他誤飲

子どもはいい匂いがする物が大好き！化粧品でも洗剤でも、すぐ口に入れてしまいます。また、目についた物は何でも気になり口に入れたいくなります。子どもの目線に立って1度、家の中を再確認して見ましょう！

まてーっ！！

⇒ 交通事故

転がっていくボールを追いかけてなど、ついつい道路に飛び出します。

赤ちゃんの水分補給

赤ちゃんの体重の70～80%は水分。
脱水症を起こしやすいので、
気をつけてあげましょう。

赤ちゃんの水分補給はとても大切です！

1. 1日に入れ替わる水分量が大人よりも多い。

赤ちゃんは体重に占める水分の割合が大きく、また多くの水分量が入れ替わります。赤ちゃんの摂取した水分の入れ替わる速度は、体重あたりにすると大人の3.5倍です。

2. 赤ちゃんはのどの渇きを訴えたり、のどが渇いたとき自分で水分を補給できない。

お母さんや周囲にいる保護者が気づいて水分不足を補ってあげなければ脱水症になってしまいます。

3. 腎臓の働きが未熟で、体の中の水分を節約できない。

腎臓は体のなかの水分量を調節する重要な働きをしています。大人は脱水になりかけて体の水分が減ってくると、おしっこの量を減らすことで、体の水分を節約できますが、赤ちゃんはこの調整力が未熟です。



こんな時は脱水症に注意が必要です！

くちびるが
カサカサ

機嫌が
わるい

舌に湿り気が
ない

ぐったり
している

おしっこの量が
減っている

意識が
ぼんやり
している



赤ちゃんの水分を補うには・・・

赤ちゃんは特に発熱や嘔吐・下痢などの症状がある時は水分が不足しがちになります。また、水分とともにミネラルも同時に失われています。水分を補うには、母乳やミルクの他に、市販の赤ちゃん用イオン水も役立ちます。

※まず、乳首やスポイトで少量与えます。嘔吐がなければ少しずつ量や与える回数を増やして、様子を見ましょう



赤ちゃんの病気

下痢

赤ちゃんは消化器官も未発達で下痢をしやすいものです。食べすぎや、消化の悪いもの、慣れないものを食べたり、精神的に不安定なときにも下痢をします。うんちの状態や回数だけにとらわれず、赤ちゃんの全身状態はどうか大切です。

■ ■ 手 当 ■ ■

- 水分補給を十分に行いましょう。できるだけ、湯冷ましや番茶、赤ちゃん用イオン水を多く与えましょう。
- うんちの状態をよく見ておきましょう（色・量・回数・混じているもの）
- 診察を受けるときは、オムツごとうんちを持って行きましょう。
- おしりがただれやすいので清潔にしてあげましょう。
- 手洗いやうんちの始末に注意しましょう。

こんなときは病院へ

- 下痢が激しく、回数も多く、ぐったりしているとき
- 米のとぎ汁のような便や血液や粘液、黒っぽい便のとき
- きげんが悪く、食欲がなく、発熱や嘔吐・腹痛をともなうとき



赤ちゃんの病気

嘔吐

赤ちゃんはいろいろな原因でよく吐きます。せきと一緒に吐いたりしますが、食欲もあり、きげんもよく、また吐いたものが食べ物なら心配ありません。食べすぎ、遊びすぎ、興奮したときなど吐きやすいものです。

■ ■ 手 当 ■ ■

- 吐いたものが気管に入らないよう、からだを横向きに寝かせましょう。
- 吐いたものを見ておきましょう（色・量・においなど）
- 口の中のもの是指にガーゼを巻いてとり除いてあげましょう。
- 水分は少しずつ様子を見ながら与えましょう。

こんなときは病院へ

- 吐く回数が多く、顔色が悪いとき
- 元気がなく、ぐったりしているとき
- 血液やコーヒーのかすのようなものを吐いたとき
- 半日以上、おしっこがでない、口の中がカラカラ、目がおちくぼむとき
- けいれんがなかなか止まらないとき



赤ちゃんの病気

熱

ふだんから赤ちゃんの平熱を知っておきましょう。赤ちゃんは大人よりも平熱が高く、37.5℃位までは平熱の事も多いものです。

また、熱以外の全身の状態もよく観察しましょう。機嫌がよく、食欲があれば緊急性は低いですが、安静にして様子を見るのが大切です。

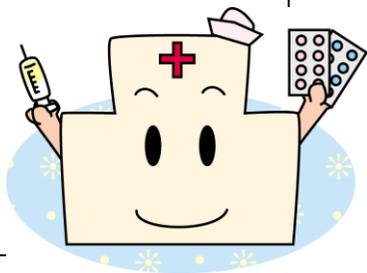
■ ■ 手 当 ■ ■

- 体温計で正しく熱を測りましょう。
- 静かに寝かせましょう。
- 水分を十分に与えましょう（食べやすい食事や飲み物）
- 汗をかいたらよく拭き、着替えをさせましょう。
- 解熱剤の使用は医師の指示を受けましょう。



こんなときは病院へ

- 顔色が悪く苦しそうなとき
- 小鼻がピクピクして呼吸が早いとき
- 意識がはっきりしないとき
- 頻回な嘔吐や下痢を伴うとき
- 不機嫌でぐったりしているとき
- けいれんがおこったとき



赤ちゃんの病気

けいれん

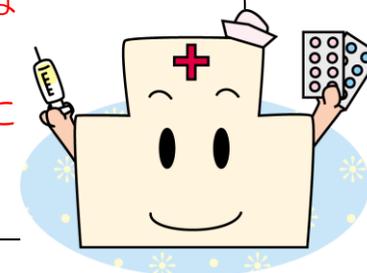
まず、落ち着いて。どんなけいれんなのかを見ましょう。

- 手や足をガタガタふるわせていましたか（何分くらいか）
 - 手足をつっぱっていましたか（何分くらいか）
 - 目は白目をむいていましたか
 - 呼吸はしていますか
- など

■ ■ 手 当 ■ ■

- 呼吸が楽に出来るように、衣服をゆるめましょう。
- 吐くこともあるので、体を横向きにしましょう。
- けいれんを起こしている間は、揺さぶったりせず、できるだけ刺激を与えないようにしましょう。
- 舌を噛み切ることはありません。口の中に物や指を入れると危険な場合もあります。

- けいれんが10分以上続く場合は救急車を呼びましょう。
- けいれんがとまったら、はやめに病院で診察を受けましょう。



緊急時の連絡



かかりつけ医	病院名 : 電 話 :
救急病院	病院名：栗山赤十字病院 電 話：72-1015
	病院名： 電 話：
救急車 (局番なし) 119番	つながったら「 救急です 」と告げます。落ち着いて 住 所： _____ 氏 名： _____ 電 話： _____ 目 標 物： _____ こどもの状態： いつ・どこで・どうしたか を伝えてください。応急処置など指示されたら従いましょう。
栗山町の 小児科病院	病院名：にしみこどもクリニック 電 話：73-3666
役場	電 話： 73-2256 (住民保健課 健康推進グループ) 電 話： 72-0801 (子育て支援センター)
救急安心 センターさっぽろ	#7119 ※365日、24時間対応 救急医療相談窓口 携帯電話もつかえます。 ダイヤル回線・一部IP電話からは 011-272-7119
日本中毒情報 センター	中毒110番：大 阪 072-727-2499 ※365日 24時間 中毒110番：つくば 029-852-9999 ※365日 9~21時 タバコ専用電話 072-726-9922 ※365日 24時間 ※タバコなどの化学物質を飲み込んだときの相談に応じています。
北海道小児 救急電話相談	電 話： 011-232-1599 短縮ダイヤル： #8000 (家庭用のプッシュ回線・携帯電話から) 受付時間： 19:00~翌8:00 (365日対応)

発行・作成：栗山町 住民保健課 健康推進グループ

作成協力：小児科医 西見 寿博 (にしみこどもクリニック)

令和元年6月修正